クラス	101	担当教員	小國　和子　（おぐに　かずこ）
		テーマ	農村・開発・多文化共生 ～フィールドワークをして「わたし」に出会おう～
		著書･論文 研究課題等	主編著『支援のフィールドワーク　開発と福祉の現場から』世界思想社、2011（「開発人類学」テキスト）。 共著『フィールドワーカーズ・ハンドブック』世界思想社、2011。 『開発援助と人類学～冷戦･蜜月･パートナーシップ』明石書店、2011。 『開発と農村－農村開発論再考－』アジア経済研究所、2007。 『テキスト社会開発』日本評論社、2006。

ゼ ミ ナ ー ル 概 要

キーワード：「わたし」というフィールド、フィールドワーク、農業と農村、コミュニティ開発、インドネシア

本ゼミでは、文化人類学的なフィールドワーク調査方法を身につけ、各自が研究テーマを設定し、実際に体験的なフィールドワークに個々でチャレンジしてもらいます。テーマは自分の関心を探ってみつけていきます。教員は、「ものの見方」を教えます。他者のリアリティに近づくことで、「わたし」をも再発見してください。

得たデータを活用して次年度に「卒業研究」を受講して卒業論文を書くことを想定しています。そのための指導を行いますので、卒業論文を書く意欲のある人を歓迎します。

【到達目標】

２年までに培った基礎学力（読む力、書く力、考え・まとめ・発表する力、グループ力）をもとに、

(1) 議論し、意見を出すことで、自分の問題意識を絞り、「マイ・テーマ」に近づく。

(2) 関心にひきつけて本を読む。本の読み方を習得する。本の活用仕方を理解する。

(3) 農村・農業・開発の基礎知識を身につける。

(4) 農村フィールドワークの方法と実践（主に「現場で考え、体験する」文化人類学的な方法論を学ぶ)。

→これらより、４年次で執筆する卒業論文のテーマを発見するとともに論文作成に必要な知識と文章力、調査力、気力と体力、相互扶助力（！）を身につけ、自己課題を考察する総合的な力を養う。

【内容と方法】

・「調べ方」を学ぶ（フィールドワークの基本、参与観察、ＫＪ法、聞き取り。野外調査の姿勢、ノーツのつけ方)。

・「足もと」にある問題を学ぶ（日本農村の現状。食をとことん考える。農業体験)。

・「世界とのつながり」と「距離感」を学ぶ（日本在住外国人をとりまく様々な制度と現実、世界から見た日本)。

・マイ・テーマを見つける（個人課題への取り組みと発表、討議)。

・「調べ方」を実践する（フィールドワーク準備。農村調査の実施と成果のとりまとめ)。

【授業計画（スケジュール)】

前期：「わたし」のフィールドワーク、参考図書の読解と報告、グループ学習。農業体験。

休暇中：福井県あるいは各自の出身地で農村調査を実施。条件を満たす場合は教員のインドネシア調査に同行可。

後期：調査結果まとめ。研究テーマ検討会など。

担当教員からのメッセージ

・「書を捨てよ、町に出よう」ではなく、書を読みつつ、フィールドにも出るつもりで参加してください。

・待っているだけの人は、何も得られないで終わります。アイデアを出せる人にはどんどん指導します。

・正門前の畑で農作物を「自己責任で」作ってみたい人を歓迎します。

・休暇中に農村でフィールドワーク＆農作業体験をする気がある人を歓迎します。

・４年次に卒業論文を書く気で受講してください。論文を書く気のない人は参加しないでください。

・「異文化理解」を受講済みで「開発人類学」受講予定の人に限ります。